

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢・発見・実現」を合言葉とし、地域に根ざし、生徒一人ひとりの多様な学びと多様な進路を実現する総合学科高校をめざす。

総合学科高校の特色を活かし、各系列の選択科目での学習を通じて各生徒の興味、関心に応じた幅広い知識、能力、技術を習得させるとともに、全教職員が学校の教育方針に基づいて、キャリア教育、生徒指導、人権教育を密接に連携させてきめ細かい指導、支援を行い、一人ひとりの進路実現をめざす。

- 1 自立した社会人として主体性を持ち、自らの力で学び、考えたことを、自らの言葉で表現できる力を育成する。
- 2 将来に夢と希望を持ちながら自己の具体的なキャリアビジョンを設定し、実現に向け粘り強く努力する力を育成する。
- 3 多様な社会の流れや課題の本質を理解し、高い自尊感情を持ちながら変化の時代を生き抜く力を育成する。
- 4 地域との繋がり人との繋がりを大切にし、互いに助け合い高めあう関係を築くことのできる力を育成する。
- 5 北摂地域初の「中国等帰国生及び外国人生徒入学選抜」実施校として、外国にルーツを持つ生徒の支援と日本人生徒との共生を図る。

2 中期的目標

1 確かな学力への取組み

(1) 多様な教育課程を設定できる総合学科高校の特色を生かし、様々な学力実態や興味・関心・進路希望に応じた教育内容を創造する。

ア 各系列の選択科目については、生徒の選択状況や学校教育自己診断の結果等に基づき、既設科目の改廃や新たな科目設置を積極的に実施する。

イ 普通科選択制高校として培ったエリアの魅力を生かしつつ、学び直しの視点も入れ、生徒の基礎学力の充実と学習意欲の向上を図る。

(2) 生徒の学習意欲を向上させるため、全科目で一斉講義式授業からの脱却をめざし、双方向性に富んだ対話と考える時間のある授業づくりを進める。

ア Yプロ研修（経験の少ない教員研修）など指導教諭を核とした組織的な授業改善を進め、教員間での相互授業見学、相互評価、及び他校教員との交流を含めた研究授業、公開授業を実施する。また、生徒による授業アンケート等により、教員が不断に授業改善に努める。

イ 施設実習や国際交流、職業体験など多様な学習機会について、地域や保幼小中大との連携を深める中で機会を増やしていく。

* 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度について、平成26年度の58%から平成29年度には70%にする。

2 夢を育みその実現に向けた力をつけるキャリア教育の推進

(1) 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「課題研究」をキャリア教育の核とし、自分で考え、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。

ア ドリカムルームを活用したグループ学習等を通じて、主体的に学ぶ意欲を養い、学ぶ楽しさを知る。

イ 多様なモデル像との出会いや体験を通じて、自分の将来像を描く中で、自尊感情や社会的有用感に富んだ人間性を育成する。

ウ 自分が選んだテーマを研究し、「論文」にまとめ、プレゼンテーションすることを通じて、視野を広げ自分を伝える力を育成する。

* 第1志望の大学・専門学校・事業所への進学率・就職率について、平成26年度の65%から3年間で80%に引き上げる。

3 安全で安心な学校づくり

(1) 人権教育と生徒指導の一層の充実を図る。

ア 人権教育と生徒指導の連携を一層充実させることにより、すべての生徒が安心して生活できる学校づくりをすすめる。また、その基盤として、挨拶及び自分を大切にするとともに、自立心・規範意識を育てることにより、基本的生活習慣を確立する。

イ 生徒指導上の課題のある生徒については、すべての教職員が適切かつ毅然とした指導を行うよう、指導方法における教職員の共通認識を深め、チームワークを活かして対応する。また、不登校の兆候の見られる生徒や発達障がい等の個別の支援が必要な生徒については、個別の指導計画を作成し、様々な機会にカウンセリングマインドをもって対応するとともに、中学校、保護者や外部の専門機関等と連携しながら状況改善に努める。

ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒への日本語指導・母語指導の充実を図るとともに、進路を意識した取組みを進める。また、学校全体で多文化共生の取組みを発展させる。

* 具体的目標として、平成26年度から3年間で遅刻件数、懲戒件数、不登校生徒数の10%減少をめざす。

4 地域連携、保幼小中高連携の強化

(1) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成を図る。

ア これまで福井高校が培ってきた保幼小中高連携、地域連携のネットワークを一層発展させ、地域の保幼小中学校、地域住民にとって敷居の低い「開かれた学校」づくりを推進し、地元根づいた学校づくりを進める。また、ドリカムルーム等を活用して、地域住民対象の講習会や講座の開催などにも取り組み、地域の一員として双方向的につながってゆく実践を行う。

イ 学校協議会及び学校教育自己診断を活用するなど、保護者や地域住民のニーズを反映した学校改善に取り組む。同時に総合学科高校として学校からの情報発信を積極的に進める。さらに、「豊川教育コミュニティネット」の一員として、他校の教職員とのネットワークを一層強化する。

5 教職員の組織的・継続的な育成

(1) ミドルリーダーの育成を図る。

ア 本校が初任で担任を経験している教員に、担任団の中軸としての役割を与え、段階的に分掌や委員会の責任ある位置に配置し、ミドルリーダーへと育成を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力への取り組み	<p>(1) 多様な学力実態や興味・関心・進路希望に応じた教育内容を創造 ア、各系列を中心とした選択科目・学び直しの科目の内容の充実 (2) 双方向性に富んだ対話と考える時間のある授業の実施 ア、全ての科目で一斉講義式からの脱却 イ、多様な学習機会の提供</p>	<p>(1) ア、教育産業のプリント教材を活用し、英数国3教科で学び直しの時間を作る。 イ、エリアの魅力を生かし、系列科目の内容を充実する。 (2) ア、指導教諭及び各教科で模範となる授業者を指名し、研究授業や授業見学を行う。 また、自己申告票の目標設定において授業力の項目で「双方向性」や「考える授業」などの工夫について記述を求め、その実践について検証する。 イ、施設実習や国際交流、土曜講座など多様な学習機会を提供し、豊かな学びを創造する。</p>	<p>(1) ア、英数国の学び直しの内容が充実したものとなり、生徒の学習意欲が向上するか。 イ、エリア科目の満足度で80ポイントを維持できるか。 (2) ア、引き続き模範となる授業者を各教科で指名できるか。また、授業アンケートの数値を5ポイント上げられるか。 また、自己申告票への「双方向性」や「考える授業」などの工夫についての目標設定がすべての教諭で設定できるか、またその実践について、各自で検証できるか。 イ、施設実習等20回以上の実施(目標生徒数30人以上)、オーストラリアへのスタディツアー、予備校講師による土曜講座(30人を維持)などが実現でき、生徒の学習意欲が向上するか。</p>	
安全で安心な学校づくり	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立 ア、授業規律の確立 イ、服装指導の徹底 ウ、遅刻指導の徹底 (2) 自他を大切にできる人権感覚の育成と生徒相談体制の充実 ア、「気づき」「交流」「発信」を重視した人権学習 イ 職員研修の充実 ウ 外部機関との連携 エ 個別の指導計画 オ 中国等帰国生徒・外国人生徒関連</p>	<p>(1) ア、各学年の担任団で授業規律の指導目標とマニュアルを作成し、全教科担当が線をそろえた指導を行う。 イ、制服の着こなし(特に冬のセーターの色やパーカー類など)の徹底指導を行う。 ウ、遅刻指導は朝の挨拶運動やメロディチャイムの活用に加え、学年での放課後指導を充実する。 (2) ア、人権HRをはじめ様々な場面で左記の視点での取組を進める。 イ、人権保健部主催の職員研修を開催する。 ウ、精神科医等の指導を受けたケース会議を行い、教育センターにつなぐことも検討する。 エ、必要に応じて個別の支援計画を作成する。 オ、中国等帰国生徒・外国人生徒の日本語・母語指導の充実と多文化共生の取組を学校全体で進める。</p>	<p>(1) ア、私語の目立つ授業がないか、授業アンケート及び担任会や教科会などでも点検・把握できているか。 イ、全教員で指導できているか。 ウ、遅刻者を8,560人から5ポイント減をめざす。 (2) ア、学校教育自己診断での人権に関する項目の数値をアップさせ、80ポイント以上をめざす。(平成27年度74%) イ、年3回以上実施できるか。 ウ、ケース会議を年3回できるか。 エ、発達障がいなど課題を抱えた生徒の「個別の支援計画」について100%の作成をめざすとともに、教科担当を含めチームで指導に当たる。 オ、中国等帰国生徒・外国人生徒の学校への定着や進路意識の醸成が図れるか。また、日本ルーツの生徒との交流が前進するか。</p>	
地域連携、保幼小中高連携の強化	<p>(1) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成 ア 地域に根ざした学校づくりの推進 イ 地域、中学校に向けた情報発信 ウ 授業・行事を通じた地域交流</p>	<p>(1) ア、 ・生徒会、部活動などで地域のイベントへ積極的に参加し、交流を深める。 ・高校教育への理解を深めてもらうため、地元小中学校の出前授業を行う。 ・茨木市人権研究会、豊川教育ネット主催の公開授業や研修に参加する。 ・「福井高校を育てる会」を活性化する。 ・「福井高カップ」への参加者を増やす。 イ、総合学科へのリニューアル及び1・2期生の取組をHP・説明会など様々な形で地域・中学校に発信する。 ウ、選択科目での地域交流を実施する。</p>	<p>(1) ア、 ・学校として地域イベントへの参加を10回以上にする。(平成27年度10回) ・出前授業を5校以上で実施する。(平成27年度5校) ・研究発表1回以上、公開授業や研修への参加者を増やし、延べ50人以上をめざす。 ・地元中学校の理解を深める取組を実施する。 ・「福井高カップ」参加者の5ポイントup。(平成27年度約1,000人) イ、HPの更新頻度の向上や各種説明会の開催、HP閲覧カウンター5ポイント増をめざす。(平成27年度226件/1日) また、説明会の中学生等参加者の総数850人以上を維持し、1,000人をめざす。(平成27年度約850人) ウ、複数教科で実施し、生徒の気づき等を把握する。</p>	
人材育成	<p>(1) ミドルリーダーの育成</p>	<p>(1) 本校初任で担任を経験した教員を分掌や委員会の責任ある位置に配置し、ミドルリーダーへと育成していく。その際担任団や分掌・委員会で中軸となる役割を与え、組織運営の観点を育成していく。</p>	<p>(1) 次年度の分掌長を担える教員を更に育てることができるか。また、将来的に首席や指導教諭をめざす教員を発掘できるか。</p>	